



2021年3月5日

各 位

会社名 株式会社メドレックス
代表者名 代表取締役社長 松村 米浩
(コード番号：4586 東証マザーズ)
問合せ先 取締役経営管理部長 藤岡 健
(TEL. 03-3664-9665)

日本薬学会 第141年会における発表のお知らせ

2021年3月26日～29日に開催される日本薬学会第141年会において、当社と徳島大学が共同で実施した研究成果が発表されることになりましたのでお知らせいたします。

◇日本薬学会 第141年会 開催概要

会期：2021年3月26日(金)～29日(月)

会場：オンライン開催

URL：<https://confit.atlas.jp/guide/event/pharm141/top>

◇当社と徳島大学との共同での発表演題

イオン液体を用いたGLP-1受容体作動薬の腸管吸収性検討

【概要】

経口投与は非侵襲的な薬物投与経路であり、自宅で服薬可能であることから、患者さんの体力的・経済的負担を軽減できる投与方法である。しかしながら、経口投与で吸収できる薬物は極めて限定的であり、経口吸収性を改善する技術も未だ発展途上にある。そこで、我々は独自のイオン液体技術を応用し、ペプチド医薬品であるリキシセナチド(*)の経口吸収性(腸管吸収性)の改善を試みた。

リキシセナチド(Lix.)をイオン液体(ILs)に溶解させたLix.-ILsをマウスに経腸投与し、血中濃度及び血糖値の上昇抑制効果を評価した。リキシセナチドを生理食塩水(Saline)に溶解させたLix.-Salineを経腸投与すると血中への移行はみられず、予想通りリキシセナチドのみでは腸管吸収性を示さなかった。一方、Lix.-ILsを経腸投与すると、リキシセナチドの血中濃度が顕著に上昇し、高い血中濃度が維持された。さらに、同程度の血中濃度を示すLix.-Salineの皮下投与と同等の血糖値の上昇抑制効果がみられた。以上の結果より、イオン液体によるリキシセナチドの腸管吸収性の改善が確認された。

このことから、我々のイオン液体技術により、ペプチド医薬品の腸管吸収性を改善することができる可能性があることが示された。

* リキシセナチド：グルカゴン様ペプチド-1(GLP-1)受容体作動薬に分類される2型糖尿病治療薬であり、腸管吸収性の低さから1日1回の皮下注射剤として販売されている。

以 上